



多くの参観者に感謝

▼6月13日～17日までの1週間、本校では「生活参観週間」を設定し、保護者や地域の皆様に子どもたちの活動を直接見ていただく機会を設けました。▼今年は、**100名を超える多くの参観者**がありました。内訳は保護者が67名、民生委員さんが9名、市川小の先生が21名、市川東小の先生が4名、青洲高校の先生が4名、その他4名となっています。▼4月予定していた授業参観が、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、中止になりましたので、この機に多くの保護者に子供たちの様子を見ていただくことができ、学校としてもありがたかったです。▼以下に、感想として寄せられた声の一部を紹介させていただきます。



- ・生徒たちが一生懸命学習や行事に取り組んで姿が見られました。また、1年生も中学生らしくなっていて感心しました。
- ・生徒がよく挨拶をしてくれ、楽しく生活している様子がうかがわれました。
- ・3年生の落ち着いた授業態度に感心しました。
- ・清掃活動をはじめて見ましたが、無言清掃で真面目にしています。すごいなと思いました。
- ・仲の良い学年なので、楽しそうで安心しました。
- ・数学の授業、子供から聞いていましたが、とても分かりやすい授業でした。
- ・会う先生方も活気があり、学校の雰囲気の良さを感じました。
- ・先生方が工夫をして授業をしてくださっているのを感じました。外部講師の災害学習は、私自身も勉強になりました。
- ・コロナ禍で授業参観や文化祭、合唱発表会など、保護者が参観できる機会が減っている中で、一週間の期間を設けて生活参観を実施していただけること、とても有難かったです。

茂木健一郎さんの講演より

▼先日、テレビ等でもお馴染みの脳科学者「茂木健一郎」さんの講演を聞く機会がありました。演題は「脳科学からの中学校教育への期待」、その講演の中で、「なるほど」と私自身が思ったことの一部を紹介します。

- ・中学生の時期は、**前頭葉** (大脳半球の前部) が発達する時期であり、**相手の心を読み取るなどの社会性を身につける時期**である。
- ・人間の脳は、親から引き継いだ「遺伝子」と生まれた後の「環境要因」が50対50で成長する。また、それを補うのが学校の役割である。
- ・いろんな人に会って、いろんな人の影響を受けるよう育てることが親の責任。したがって、様々なことにチャレンジさせることが大切である。
- ・親が**支配的で、口を出しすぎると、子供の前頭葉は育たない。**



コロナ対応について

▼学校だより NO4 でお知らせした通り、登下校時や体育の授業でのマスク不要をはじめ、気温の上昇やオミクロン株の特性等に応じたコロナ対応が県から示され、実行しているところです。さらに、6月17日付で、**出席停止に関する変更点(太字)**がありましたので、お知らせします。▼これまで通り、生徒本人が「感染者」となった場合や、同居家族が「感染者」となり本人が「濃厚接触者」となった場合は原則7日間の出席停止となります。今回変更となったのは、**同居家族が発熱・咳等の症状があり病院受診にてPCR検査陰性又は風邪等と診断された場合は、本人が発熱や咳症状等がなければ登校が可能になります。**▼なお、判断に迷う場合は、これまで通り、学校に連絡をして、指示に従っていただければ、良いと思います。ここにきて、感染者数が減ってきましたが、ご家庭においても引き続きの感染症対策をお願いいたします。